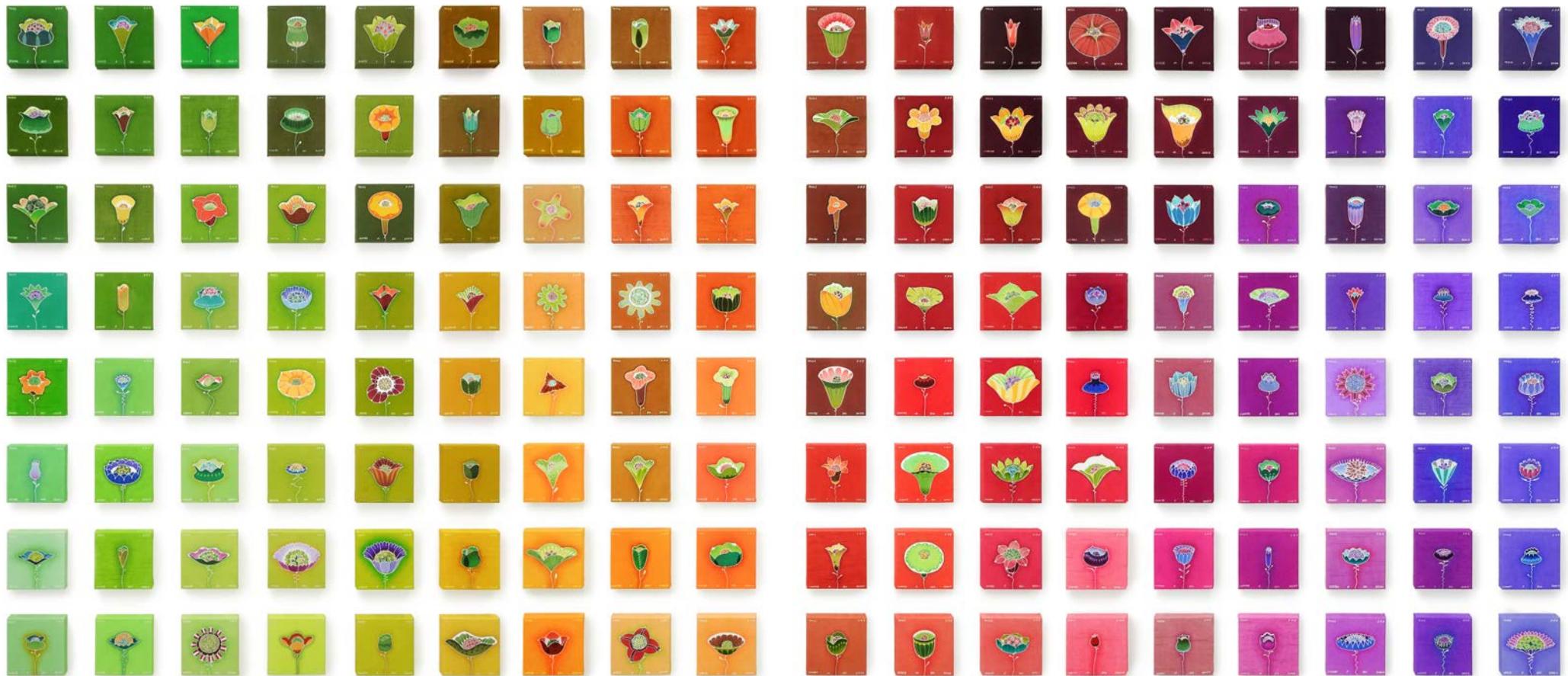


KOGEI



TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS DEPARTMENT OF CRAFTS 2021

COVER:曾斯琴 / 修了制作〔賣上げ作品〕

TITLE:人間花像 SIZE:H140×W500×D4cm

上野校地 〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8
取手校地 〒302-0001 茨城県取手市小文間 5000

東京藝術大学ウェブサイト www.geidai.ac.jp
お問合せ先: 050-5525-2075(東京藝術大学学生課入学試験係)



東京藝術大学 美術学部 工芸科 2021年度 学科案内

TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS
DEPARTMENT OF CRAFTS

2021

科長挨拶

200年に一度と言われる世界的な変革が現在進行形で起きている最中ですが、私たちはどのような方向性を見出していくのかがとても重要になっています。

昨年は、新型コロナの猛威の中を、自粛規制も鑑みながら、工芸科は出来る限り万全になるようにコロナ対策をし、美術学部でもいち早く対面授業を実施しました。手から手へ、ものからものへの伝統的指導を断ち切らないようにするために、オンラインでは不可能であるとの共通認識のもと出講人数を制限しながらの授業展開でした。

現在も工芸科の教員・学生共々、新型コロナに対してマンネリにならないようしつかりと対応している状況で、皆さんの自粛と、制作意欲のバランスが取れた状況を継続できています。

今後もどのようになるか不安な現状ですが、東京藝術大学は、開学して134年目となり、海外渡航が厳しい中でも多くの留学生が在籍しており、開かれた大学となっています。

私たち教員は、工芸科の積み重ねてきた人的、技術的財産をベースとし、これから芸術の世界を切り開いていける学生を育成することを目的としています。

困難なことが多ければ多いほどやりがいがあります。これから私たちと一緒に魅力的な工芸の世界を創っていきましょう。

東京藝術大学美術学部工芸科 科長 赤沼潔



入試について

◇ 問題文は本学ウェブサイト 入試情報<<http://admissions.geidai.ac.jp>>からご覧頂けます。

工芸科学部入学試験は、第1次試験の鉛筆写生、第2次試験の平面表現、立体表現、大学入学共通テスト、出身校の調査書から総合的に考查し、判定します。
受験科目だけのエキスパートになるのではなく、様々な場面において、力を発揮する柔軟な学生を求めていきます。

鉛筆写生

写生は、あらゆる意味で創作活動を支える造形の源になるため、工芸科では高い水準のデッサン力を有した人材を求めていきます。受験科目の一つとして捉えてしまう人も少なくありませんが、観察から得られた発見や感覚は、素材を扱って作品制作をする工芸にとって大切なことと考えます。

平面表現

描写力や構成力をつけることが基礎となり、同時に色彩感覚が高まることで工芸独自の質の高い作品を制作することが可能になります。自然物や人工物などを問わずに対象を観察し構成することは、工芸制作に必要な豊かなイメージや感性を養うことにも繋がります。

立体表現

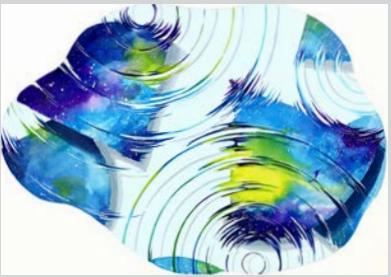
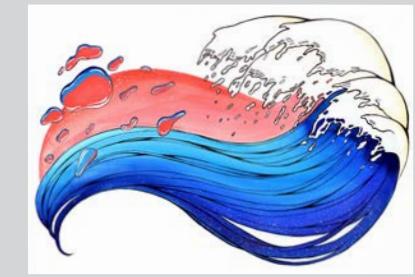
モチーフの的確な観察による立体感の把握、質感の表現、空間を意識した量感の構成などは、立体造形における基本です。さらにイメージや発想の独自性などを含めて、工芸の専門分野の様々な素材に対応できる柔軟な能力が必要となります。

2021年度
合格者作品

[鉛筆写生]



[平面表現]



[立体表現]



カリキュラム

工芸科は彫金・鍛金・鋳金・漆芸(漆工・木工)・陶芸(陶・磁・ガラス造形)・染織の6分野からなり、工房制作を中心とした少人数による個人指導が特徴です。

1年次は、工芸科各分野の専門技法の体験、絵画や塑造など美術全般にわたる基礎的な表現力と造形感覚を養います。2年次より6分野に分かれて専門的な造形表現を習得していきます。3年次には、複合的な学生の育成を目指し、6分野の領域を跨いだ工芸総合演習を実施しています。4年次には、半年から1年かけて卒業制作に取り組み、学部での成果を発表します。

多くの学生が大学院に進学し、各自の専門性をさらに高めて社会に出ていきます。

学 部										修 土					
1年			2年			3年			4年			1年		2年	
工芸	彫金	・基礎技法 ・接合 ・装身具制作	・象嵌 ・打ち出し			・各種技法研究 ・管(各種色金) ・研究制作		・研究制作				彫金	・彫金技法研究 ・精密鋳造実習	・溶接実習 ・彫金制作法	・彫金技法研究 ・彫金制作法 ・研究制作
		・道具整備 ・基本回転紋り ・花器制作	・機械工作演習 ・変形紋り			・溶接実習 ・鍛造実習	・木目金実習 ・接合実習	・研究制作			・鍛金技法研究 ・精密鋳造実習 ・鍛金制作法	・取手金工機械室実習 ・七宝演習 ・研究制作	・鍛金技法研究 ・鍛金制作法 ・研究制作		
		・道具制作 ・生型铸造 ・真土込型铸造 I ・着色研究	・石膏铸造 ・精密铸造	古美術研究旅行	工芸総合演習	・真土込型铸造 II		・鋳金制作法 ・真土端型铸造	卒業制作	自画像	・鋳金技法研究(減圧铸造) ・精密铸造 ・鋳金技法研究(セラミック铸造)	・鋳金制作法 ・研究制作 ・溶接実習	・鋳金技法研究 ・鋳金制作法 ・研究制作		
	塗芸(漆工)	・道具制作 ・手板制作 ・工程手板制作	・蒔絵 ・螺鈿、卵殻、平文 ・木工造形演習			・乾漆造形実習 ・研究制作	・木工造形実習 ・研究制作	・蒔絵 ・変わり塗り ・研究制作	卒業制作	自画像	漆芸(漆工)	・漆造形技法研究 ・漆装飾技法研究	・漆芸歴史研究 ・研究制作	・漆造形技法研究 ・漆装飾技法研究	
		・陶芸(陶・磁・ガラス造形)	・粘土づくり ・輪轤成形 ・窯炉焼成 ・登り窯焼成(隔年)			・輪轤成形 ・窯炉焼成(隔年) ・登り窯焼成(隔年) ・泥漿詰込み成形	・制作実験 ・ホットワーク(ガラス) ・コールドワーク(ガラス) ・キルンワーク(ガラス)	・輪轤成形 ・研究制作	卒業制作	自画像		・木工技法材料研究 ・木工造形研究	・研究制作	・木工技法材料研究 ・木工造形研究	
	染織	・色見本制作 ・ろうけつ染 ・紅型、型染 ・スクリーン捺染	・基本織り組織 ・紡織 ・二重織			・友禅染 ・絞り染	・綴織 ・フェルトワーク	・創作研究	卒業制作	自画像	陶芸(ガラス彫)	・陶磁技法研究 ・窯炉制作実習	・登り窯焼成 ・研究制作	・陶磁技法研究 ・研究制作	
									卒業制作	自画像		・ホットワーク ・キルンワーク	・コールドワーク	・研究制作	
											染織	・染技法研究 I, II ・織技法研究 I, II	・取手草木染研究 ・取手ファイバーワーク	・染技法研究 III, IV ・織技法研究 III, IV	

*本カリキュラムは、改定になる可能性があります。

2021年度 工芸科教員

[彫金]

教 授 前田 宏智
准 教 授 岩田 広己
教育研究助手 佐々木 史恵・水谷 奈央
崔壽現・宮石 憲作

[鍛金]

教 授 丸山 智巳
准 教 授 志村 和彦
岩崎 裕純・塙見 亮介
吉田 果歩・瀧澤 花織

[鋳金]

教 授 赤沼 潔
准 教 授 谷岡 靖則
南 時俊・松渕 龍雄
柴田 穂理・山西 もも

[染織]

教 授 上原 利丸
橋本 圭也
朱 軼殊・海老塚 季史
石井 淳・大小田 万侑子

[漆芸(漆工・木工)]

教 授 小椋 範彦
准 教 授 青木 宏憲
講 師 齋藤 秀徳
佐々木 岳人・田中館 亜美
中内 安紀徳
教育研究助手 新井 寛生・伊藤 ミナ子

[陶芸(陶・磁・ガラス造形)]

教 授 三上 亮
准 教 授 椎名 勇
(兼)教 授 藤原 信幸
茂田 真史・岩淵 真理
奥田 康夫・地村 洋平
苅込 華香・高橋 侑子
多田 エリ佳

[工芸]

助 教 今井 美幸
教育研究助手 佐治 真理子・三塚 貴仁
[漆芸(漆工・木工)]
蒔絵
[取手工芸]
高岡 太郎

制作風景



[彫金] 糸鋸による透かし作業



[鍛金] 機械工作演習



[鋳金] 仕上げ



[漆芸(漆工・木工)]
蒔絵



[陶芸(陶・磁・ガラス造形)]
ホットワーク



[染織] スクリーン捺染

卒業・修了制作



[彫金]



[鍛金]



[鋳金]



[漆芸(漆工・木工)]



[陶芸(陶・磁・ガラス造形)]



[染織]

工芸科の学内行事

本学では、研究の一環として古美術研究旅行をはじめ、様々な行事やイベントを行います。

学生主体で一つのイベントを成し遂げる事や、国際的な視野を広げる経験は、通常の授業とは異なる貴重な機会となります。

*2020年度は、例年と方法を変更しての開催や中止となった行事もあります。

古美術研究旅行（変更）

学部3年生の4月に2週間、奈良と京都の神社仏閣等を見学します。
2020年度、2021年度はオンライン授業と東京近郊での見学・研究を行います。



国際交流（変更）

海外よりキュレーターや、美術大学の教授を招き、作品の講評をしていただく機会を設けています。国際的な視野を広げ、世界に通用するアーティストを目指します。2020年度は、オンライン講演会とGoogle Classroomにて講評会を行いました。



卒業・修了作品展（変更）

学部・大学院の研究成果を「東京都美術館」「東京藝術大学大学美術館」などに展示し、多くの方に見ていただく、人生的節目となる大切な展覧会です。
2020年度はバーチャル展覧会をあわせて開催しました。



新入生歓迎会（変更）

工芸科に入学して最初のイベントです。
2020年度は、オンラインで新入生の紹介を行いました。



各分野ごとの祭（変更）

工房の安全を祈願するお祭りです。
工芸科にとって、道具や工房は最も大切なものです。これらのお祭りは毎年欠かすことの出来ないものです。



2020年度は新願のみ各分野でとり行いました。
-彫金・鍛金・鋳金=縞祭 / 漆芸=籠懸祭 / 陶芸=餅つき -



藝祭（神輿・法被中止）

1年生は神輿と法被を制作し、工芸科一体となって上野公園でパフォーマンスします。夏休みの間、休む間も惜しくて制作した作品は、エネルギーに溢れた迫力とクオリティです。



研究旅行（中止）

各研究室で企画する旅行です。
分野ごとに訪問先を選び、研究分野への理解を深め、制作に活かします。



スポーツ大会（中止）

工芸科全体で行うイベントです。
留学生も含め工芸科の学生が一堂に集まり親睦を深めます。各分野の威信をかけた戦いに、学生達は勿論、教員達も大いに盛り上がりります。



コロナ禍の授業風景

2020年度は、オンラインと対面の両方で授業を行いました。
距離をとりつつ理解しやすい工夫をこらして授業を行っています。



専門分野紹介

彫金

たがね
鑿を操り生み出される繊細な世界

彫金は、主に金鎚と鑿(たがね)を使用して、金属を彫る、立体的に打ち出す、他の金属をはめ込み象嵌(ぞうがん)をするなど、様々な加工技術を基礎として学びます。金属の切削性や可塑性を生かし、金属同士をつなぎ合わせて器やオブジェ、ジュエリーなどの作品が制作されています。また本学の取手校地には金工工房表面処理室があり、七宝焼きについてもカリキュラムを設けて学んでいます。素材には銅・真鍮(黄銅)・錫・鉄・ステンレス・アルミニウム・チタニウムや金・銀・プラチナなどの貴金属、伝統的な日本の合金である赤銅・四分一などがあります。カリキュラムの進行とともに技術や素材の体験を重ねて、感性や表現力を高め、学生それぞれの研究テーマによって制作研究が進められます。たえず生活空間全体を意識し、現状における表現方法の在り方を探求して新しい個性を築き、世界に発信しています。



布象嵌 金、銀、銅の薄板を嵌め込み、デザインします。



透かしによる表現で立体作品を制作します。

卒業後の進路

株式会社ミキモト / デザイナー

2017年修了 佐久田 麻希・仲道 萌恵



〔佐久田〕

幼い頃からお洒落が好きでした。中でもジュエリーへの憧れと物作りへの熱意は変わらず、大学で彫金に進み、株式会社ミキモトへ就職しました。歴史ある会社ですが、新しいエッセンスを取り入れたデザインを提案しなければなりません。そんな時、在学中に学んだ素材や表現方法に囚われない制作の経験は今でも大きな糧となっています。

〔仲道〕

ジュエリーデザインではベーシックな物から新しい物まで様々な提案を求められ、在学中に培った造形力と制作プロセスが今の仕事でも役立っていると感じています。藝大は自由な時間が多く沢山のチャレンジができ、私にとって青春そのものでした。かけがえのない友人達と出会い、カリキュラムを学ぶだけではない生涯の宝を得られる環境だと思います。

鍛金

金鎚を用いて多彩な造形を作り出す

鍛金は、銅などの様々な金属の板を金鎚で叩き立体へ加工する“絞り”と、鉄の棒材などをバーナーや炉で赤くなるまで熱し叩いて加工する“鍛造”的2つの伝統技法を軸としています。

カリキュラムは、基本手絞り実習(回転体)・1枚変形絞り(動物制作)・鍛造実習・接合実習(木目金制作、ロウ付け等)があります。

これらの基礎技法に加え現代的な機械加工・各種接合技術なども実習を通して学ぶことで、金属造形の基礎知識と総合的な表現力を養い、より幅広い創作力の向上と多岐にわたる作品制作を目指しています。卒業後は、現代美術家・伝統工芸作家として独立し活動している者や、専門知識を活かしデザイナー(建築・内装・広告・プロダクトなど)・教育者・研究者などの職に就く者など、様々な方面で活躍しています。



鍛造実習。赤めた鉄は軟らかくなり、金鎚で叩いたり、曲げたりねじったりして加工することができます。



1枚変形絞り。1枚の銅板を様々な金鎚と当金を用いることで思い思いの形へ造形することができます。

卒業後の進路

アーティスト

1993年修了 日比 淳史



未来の後輩へ。私は金属作品の展示発表の傍ら、野外彫刻・インテリア・店舗や空間デザイン・メディアへのオブジェ参加・企業のデザイン顧問などジャンルにとらわれず活動しています。その活動で鍛金技法はあまり使いませんが、思考の「軸」は鍛金由来します。金槌で叩く行為は金属と会話しているようなもので、気持が理解出来れば金属は思い通りの形になってくれます。さらに金属と心が通うと他の素材の特性も想像できるようになります。結果として表現の幅が広がります。学生時に恩師から「工芸とは素材に命を吹き込むことだ」といただいた助言は、今でも大切な言葉として素材に対峙しています。あなたも自分の命の吹き込み方を見つけて、展示やお仕事で仲間と一緒にできる未来を楽しみにしています。

専門分野紹介

鋳金

金属を瞬間に自分のカタチに！

鋳金は、粘土や石膏、蠟などで作成した原形を型取って、型(鋳型)に熔けた金属を流し込んで鋳物を作り、それを様々な方法で仕上げ、作品を完成させます。固い金属を思い通りの形に成形する事ができ、創造的でとても魅力的な技法です。また、指輪などのジュエリー、茶の湯釜や鉄瓶などの器物、大仏やモニュメントなどの野外彫刻、自動車のエンジンのような工業製品など、技術の使用は多岐にわたっています。本校は、日本古来より受け継がれている伝統技法を始め、最新の技法まで多種の鋳造技法を学ぶ事が出来る世界にもあまり類を見ない工房設備を擁しています。授業では素材・技法・造形への理解と洞察を深め、創作技術と感性を磨く事で、総合的な高い創造力を身につけて行きます。卒業生は、造形作家、デザイナー、教育者として、また、修士、博士課程への進学や海外留学などを通じて、その力を発揮しています。



金属の表面を仕上げたのち、伝統的な着色技法を用いて着色を施します。



1100°C以上で熔解した銅合金を鋳型に流し込みます。

卒業後の進路

土屋鞆製造所 / 製造部

2018年卒業 黒住 優



私は、ランドセルや大人向けの革製品などの製造・販売を行う企業で働いています。大学で学んだ専門的な知識は、直接的に仕事で使う場面はありませんが、端々で共通する場面によく遭遇します。鋳金は、先輩や後輩、先生と一緒に行う作業が多いです。また、金属になるまでがとても長く、地味で大変な作業が大半ですが、金属を“加工する”のではなく、“創造する”感じがとても魅力的です。会社でも、ひとつのランドセルが出来るまでに多くの人が関わります。会社全体で商品を作り上げていく感覚は、少し鋳金での作業を思い出します。工芸で学ぶことは、狭く専門的なことかもしれません。しかし、様々なもの作りに広がり、自分次第でいくらでも応用が効く学びであると思います。

漆芸〔漆工〕

伝統に育まれた自由な立体造形

漆芸はウルシの木から採取した樹液を用いた芸術です。その歴史は古く、縄文時代から漆は塗料や接着剤の用途で使用され、アジア独自の素材表現として広く知られています。

東京藝術大学の漆芸教育は基本的な塗りの工程(下地、研ぎ、塗り、磨き)から素地制作(乾漆、木工)、装飾技法(蒔絵、螺鈿、平文、卵殻、沈金、変わり塗りなど)まで一貫した授業を行っています。また漆に関する外部専門家による集中講義、歴史研究、漆芸ギャラリーでの企画展示、国際交流などを行い、幅広い視野を持った学生を育成するとともに、学生の自主性と社会への発信力を育んでいます。

自己の世界観を探求し、多様な漆芸表現を創作研究することで豊かな感性を養い、社会で活躍できる人材を育てています。卒業後は大学院へ進学し、研究をさらに深める学生も多く、そこから作家・教育者・研究者・デザイナーなどとして国内外で活躍しています。



伝統的な装飾技法である蒔絵をはじめ、様々な技法を基礎から学びます。



最終的な艶上げ作業。完成まであと少し。

卒業後の進路

漆芸作家

2014年修了 加藤 萌



卒業後は、岡山県の山奥に移住し作家活動を続けています。首都圏を離れることは作家活動にとって不利になると思っていましたが、大学で学んだ蓄積があったからこそ、地方でもアーティスト活動を続けられています。都市には都市の刺激がありますが、田舎では今まで見えていなかったことを知る機会が多くあり、人間としての幅が広がった様に感じています。制作活動をしながら、農作業やワイン造りにも携わり、漆芸や金継ぎに興味を持った地域の方が1人、2人と来られ、今では30人ほどの漆教室を開くようになりました。静かな環境ではありますが、とても目まぐるしく生活しています。今後はワイナリーに併設したアートスペースの運営にも力を入れ、作品の展示や販売もしていきたいと思っています。

専門分野紹介

漆芸〔木工〕

研ぎあげた刃物で多様な造形を組み上げる

木工は世界の歴史の中で極めて多様な姿と役割を担ってきました。建造物や造船、道具、家具、室内装飾などがあります。その中で日本における木工の歴史に注目すると、その考え方や技法ならびに使用する道具の発展に独自性と洗練が見て取れます。本校の木工のカリキュラムでは、木を組むことを中心に据え、作品における造形の在り方や成立させる背景について研究します。またそれらを支える各木工技法を学びます。木取りや墨付けなどの手順から、手道具の仕立てや使い方、各技法(指物、挽き物、削り物、彫り物、曲げ木、木象嵌)ならびに機械による加工などを総合的に学びます。

卒業後は木工に従事する者、美術家、起業する者、企業の家具デザイン部門や企画部門への就職、教育者や研究者、学芸員など、様々な方面で活動しています。



卒業後の進路

コクヨファニチャー / デザイナー
2014年木工芸修了 鈴村 春輔

木工の構造的・合理的な納まりの美しさに興味があったことから、大学院で木工芸研究室に進学し、主に曲げ木技法を用いた作品づくりに取り組んでいました。現在はコクヨというオフィス家具を製作・販売するメーカーで、オフィス空間の設計・デザインを行う部署に所属しています。プロダクトではなく内装のデザインなので、どちらかといえば建築的な要素の強い仕事ですが、特注家具や作り付けの造作家具を設計することも多く木工芸で学んだ技術や知識も、様々なシーンで活かされています。自ら手を動かす制作の現場から離れてはしまいましたが、より人間のスケールに近い視点でのモノづくりの経験があったからこそ、その経験を活かした、自分らしい空間の設計を目指しています。

箱の角をつなぐ継手を作る様子。



陶芸〔陶・磁〕

変幻自在なガラスの可能性を追求する

ガラス造形は大学院を対象として取手校地で始まった研究分野でしたが、現在では、上野校地にも溶解炉などの設備を新設し、陶芸(陶・磁・ガラス造形)として、学部から本格的な教育を開始しています。ガラス造形技法を大きく分けると「吹きガラスを代表とするホットワーク」「電気炉を使って制作するキルンワーク」「切り子などガラスを加工するコールドワーク」があり、これら全ての技法を学ぶことができます。また、陶・磁素材との関わりや、取手校地内で隣接する共通工房を活かした創作活動も魅力のひとつで、複合素材を用いた表現の可能性について探る機会も設けています。教員と頻繁に行うチュートリアルや、国内外の作家を招き、実践的で幅広い視野を持った授業を行うことで、造形力だけでは無く「考える力」「表現する力」を持った、総合力の高い作家の養成を目指しています。卒業後は、個人工房やブランドを立ち上げて、作家活動をする他にガラスマーカーや工房、教育機関に就職をしています。



卒業後の進路

東洋佐々木ガラス株式会社
/ 営業企画部 特注デザイングループ
2016年ガラス造形修了 伊藤 洋海

ガラス造形研究室を修了後、プロダクトデザイナーとしてガラス食器メーカーに就職しました。現在は企業・自治体からの特注品を主とした企画開発とそれに伴うデザイン全般の業務を行なっています。お客様からの要望をメーカーとしての規格に落とし込み製品としてカタチにデザインする作業は、学生時代になっていた作品制作とはまた違うモノづくりのプロセスが必要で苦労する部分もあります。しかし、主張や想いをカタチに落とし込む、見る人や使う人にとってそれから何を感じられるかを考える。そういうモノづくりに対するアプローチは学生時代、工芸科の中で学び育ってきた事の延長線上にあるのだと日々感じています。



陶芸〔陶・磁〕

培ってきた伝統と現代の陶芸の可能性

陶芸は、伝統技法を基本にした学びから、工芸的感性や用の美を踏まえた制作、そして素材研究から生まれる造形性を重視した教育へと学年の進行と共に発展的に行なっています。学生自身の柔軟な発想力を生かしながら実技の積み重ねによって、創造性に溢れ広い視野を持った、第一線で活躍できる人材の育成を目標としています。技術面では、轆轤成型、窯窓実習、登り窯をはじめ多様な窯の焼成実習、釉薬の調合、デザインを主とした石膏型成型など、多岐にわたる陶芸の基礎的な技法を広く学ぶことができます。独自の発展を遂げた日本の陶芸は、世界からますます注目されており、その伝統を礎として海外との交流にも力を注いできました。また、ガラス造形研究分野と共に、陶芸(陶・磁・ガラス造形)専門分野として新たな教育プログラムが始まり、それぞれの特性を解釈して素材や技法の垣根を超えた、次世代の陶芸の可能性を探っています。



大窯試験。粘土の塊を一気に大壺の形にひきあげる。



薪を燃料とする登窯による焼成。

卒業後の進路

作家

2008年修了 関口 貴仁



私は植木鉢作家です。しかし今に至るまでには何度も何度も「自分が作りたい物」を自問自答して様々な作品を作りました。陶芸家として生きてる為にニーズや傾向などに囚われて制作し、自分の作品ではない様に感じてしまい最終的には作品を作らない期間もありました。そこから抜け出しきっかけになったのが藝大の卒展と美術予備校の講師経験でした。まだ何も分からぬ中で学生達がただ必死に自分を信じて作品に取り組む姿に作家としての根幹に気付かされました。藝大卒業後の進路として作家の道がありますが、職業ではなく生き方として自分を信じて楽しんでいけば充実した作品が生まれ自然と作家という職業になっていくのだと思います。今は大好きな植物の為の植木鉢を作っています。今はそれで生きています。

専門分野紹介

染織

新しい感性が、今を染める、今を織る

染織は、伝統と現代の融合・発展を教育理念に、工芸においてアートとデザインの双方を兼ね備えた人材育成を行っています。カリキュラムの特色は、染と織の多様な技法をバランス良く編成し、基礎と専門の段階的教育によって技術・表現と知識・理論の専門能力を身につけることができます。各自の個性を生かしながら、染織表現における多角的視野と多様性を学び、将来の方向性を見出しています。

社会で幅広く貢献できるようプレゼン能力を身につけ、次世代の染織作家や教育者、テキスタイル・ファッショ・空間演出などのデザイナー、起業家として独自のブランド展開をしていく人材と、グローバル化に対応できる人材を輩出します。



糸を染め、紡ぎ、様々な織維素材に触れ、独自の表現で織り進めます。織技法では、特有のテクスチャーを生かした多彩な造形表現が可能です。

卒業後の進路

株式会社ディー・エヌ・エー / ゲーム事業本部デザイン部

2018年修了 村尾 拓美



株式会社ディー・エヌ・エーでゲームのCGに携わり、エフェクトというものを作っています。ユーザーに何かを知らせるものだったり、画面全体を演出するものだったり、多岐に渡ります。染織とは違う分野ですが、個人製作ではないチームでのモノづくりや製品に求められるクオリティの高さに、毎日学ぶことしかありません。最近は布や衣装をCGで制作することもできるようになり、副業として続いている衣装の制作の中で、CGで仮に組んでみたりもしています。大事にしていることは「とにかく作り続けること」で、それは学生時代に培われた創作に対する体力だと思います。学部から大学院まで4年間で鍛じた染織研究室は私のような挑戦気質を面白がってくれ、自由に創作活動をさせていただしていました。研究室に集まる学生も自由な気風の方が多く、卒業生の方との交流も私の視野を広げてくれたように思います。

進路について

工芸科の学生は学部卒業後、それぞれの夢に向かって羽ばたきます。

大学院へ進学し制作や研究を続ける、企業や教育機関・工房などに勤める、自身のブランドを立ち上げて独立するなど、その進路は様々です。

勿論作家活動を続け、ギャラリーやアートフェアなどで作品を発表し、コンペティションで受賞する卒業生を始め、卒業生は、学生生活の中で学んだ知識や経験を基に、デザイナーや制作者など、それぞれの分野でその能力を発揮しています。

主な就職先一覧

製造・ブランド	販売	宇都宮文星女子高等学校 香川県公立高等學校 学校法人跡見學園 学校法人鎌形學園東京學館船橋高等學校 学校法人玉川學園 吉祥女子中學高等学校 慶應義塾中等部 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部 埼玉縣立進修館高等學校 社會福祉法人慈鶴學園 昭和第一學園高等學校 女子美術大學付屬高等學校・中學校 聖光學院中學高等学校 聖ヨゼフ學院中學・高等学校 千葉県立泉高等学校 千葉県立流山中央高等学校 千葉県立幕張総合高等学校 千葉県立八千代高等学校 東京學館鶴ヶ島高等学校 東京都立高島高等学校 東京都立工芸高等学校 成田高等学校 日々輝學園高等学校 明星學園中學校	教育機関	【大学】 会津大学短期大学部 青山学院大学 秋田公立美術大学 宇都宮大学 桜美林大学 沖縄県立芸術大学 金沢美術工芸大学 九州産業大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 静岡文化芸術大学 四川美術学院(中国) 女子美術大学 杉野服飾大学 多摩美術大学 筑波大学 大邱대학교(韓国) 東京芸術大学 東京藝術大学 東京工科大学 東京造形大学 東京大学 東北芸術工科大学 東北工業大学 東北生活文化大学 富山大学 長岡造形大学 広島市立大学 文化学園大学 文星芸術大学 北京市立大学(中国) 武蔵野美術大学 横浜美術大学 【高等学校・中学校・小学校】 青山学院横浜英和中学高等学校 茨城県公立高等学校 茨城県立取手松鶴高等学校	企画・デザイン・印刷	その他
株式会社平林七宝 株式会社BRUNCH 株式会社ペリテ 本田技研工業株式会社 株式会社本保 株式会社マープルシユッド 株式会社マイトデザインワークス マルミツ陶器合資会社 株式会社ミキモト 株式会社STファクトリー 株式会社エフ・ディ・シィ・プロダクツ 株式会社エボック MHSリューションズ株式会社 株式会社大倉陶園 沖縄県読谷山焼 小津産業株式会社 カガミクリスタル株式会社 株式会社柏圭 株式会社カッソーナ・イクシシー 株式会社カブモ 株式会社川島織物セルコン 株式会社くるり 株式会社ケイ・ウノ 小泉ライフテックス株式会社 コクヨ株式会社 小松精練株式会社 株式会社coly 株式会社サザビーリーフ 株式会社サンゲ シチズン宝飾株式会社 株式会社シャルマン 株式会社鈴峯 株式会社スマッシュエリー 株式会社スペース スリーエム・ジャパン株式会社 ゼーレン株式会社 有限会社 清課堂 株式会社SOU・SOU 有限会社ソラ 高橋理子株式会社 鏡造指輪株式会社 株式会社チャコット 株式会社土屋鞆製造所 株式会社ディーエイチシー 株式会社ディー・エヌ・エー 株式会社天童木工 東洋佐々木ガラス株式会社 西川株式会社 日産自動車株式会社 ニッポンシリップ株式会社 日本アニメーション株式会社 株式会社俄 任天堂株式会社 NORITAKA TATEHANA 株式会社笛一 株式会社バルコス	株式会社マイナビ 株式会社MaGO EXPERIENCE 株式会社モルフォ ギャラリーきくら主幹 株式会社九つ井 株式会社そそう・西武 株式会社高島屋 株式会社中澤トレーディングコーポレーション 株式会社東急ハンズ 株式会社バニーーズジャパン ブリモ・ジャパン株式会社 株式会社ベルニナジャパン 株式会社モード・エ・ジャコモ 株式会社ユナイテッドアローズ	ギヤラディー ヤマハ登録機株式会社 UHA味覚糖株式会社 ユニペール株式会社 株式会社ヨガーネル 吉田テクノワークス株式会社 株式会社良品計画 株式会社ワコール I-UPスタジオ株式会社	【大学】 会津大学短期大学部 青山学院大学 秋田公立美術大学 宇都宮大学 桜美林大学 沖縄県立芸術大学 金沢美術工芸大学 九州産業大学 京都精華大学 神戸芸術工科大学 静岡文化芸術大学 四川美術学院(中国) 女子美術大学 杉野服飾大学 多摩美術大学 筑波大学 大邱대학교(韓国) 東京芸術大学 東京藝術大学 東京工科大学 東京造形大学 東京大学 東北芸術工科大学 東北工業大学 東北生活文化大学 富山大学 長岡造形大学 広島市立大学 文化学園大学 文星芸術大学 北京市立大学(中国) 武蔵野美術大学 横浜美術大学 【高等学校・中学校・小学校】 青山学院横浜英和中学高等学校 茨城県公立高等学校 茨城県立取手松鶴高等学校	株式会社アートナウ 株式会社アクア 永大産業株式会社 株式会社HDR 株式会社岡村製作所 株式会社オズ 株式会社オリエンタルランド 株式会社クリーチャーズ 株式会社グレーブストーン コナミホールディングス株式会社 株式会社コンシェルト 株式会社サイバーエージェント STUDIO NUI 株式会社セントラルプロフィックス 合同会社DMM GAMES 株式会社大日本印刷 デザインフィエタ有限公司 株式会社デサン 株式会社テレビ朝日クリエイト 株式会社電通 凸版印刷株式会社 株式会社ドラフト 日本ブレイディ株式会社 株式会社バ尔斯 株式会社Plan・Do・See 株式会社ベネッセコーポレーション 株式会社ボリュオニー・デジタル	伊勢神宮 市貝町役場 株式会社フォルトゥーナ 株式会社メーカーズ 警視庁 社団法人日本クラフトデザイン協会 独立行政法人国立印刷局 独立行政法人造幣局 アトリエTOCOHA 新見市役所 企画政策課 八戸市まちづくり文化スポーツ観光部 星野リゾート ユカイ工学株式会社	

卒業・修了作品の紹介

学生生活の集大成

卒業・修了制作は、学生が作家、あるいは研究者として世界に踏み出す第一歩となります。

工芸科での制作は、伝統の中で培われてきた技法を学び、知識を得て、さらに自己鍛錬し、素材の特性を見据えつつ、技術の習得を目指します。

学生は大学で様々な経験を積み、技術の習得はもとより、新たな素材との出会いや創作活動の中で独自の表現を追求します。

情熱と探究心を持ち、挑戦を続けた卒業・修了作品は、自己の創作活動の大きな区切りとなるだけでなく、工芸の世界に新しい可能性を提示し続けています。

彫
金
【修了作品】宮田 七彩
Proliferation
ワイヤーワーク / 鉄・ステンレス・銀
H20 × W20 × D5cm 他10点



漆
芸
【修了作品】野田 恵真
forme
乾漆・螺鈿・蒔絵 / 漆・麻布・貝・金
H220 × W250 × D60cm



陶
芸
【卒業作品】森 聖華
釣りキチ親父
手びねり / 陶土・木材・布
H35 × W110 × D40cm



鍛
金
【卒業作品】加藤 貴香子
The Furry Cuddly Teddy ~気に入ってくれた?~
絞り技法 / アルミ・銅・鉄
H160 × W50 × D50cm



鍛
金
【卒業作品】寺内 木香
思い出の部屋
石膏埋没鋳造法 / ブロンズ・真鍮
H80 × W170 × D120cm



染
織
【修了作品】長谷川 博子
祈り
縹織 / 縹糸・ウール糸・わた・針金・木材
H120 × W65 × D45cm



ガラス
造形
【修了作品】袁 方洲
地上の雲
キルンワーク / ガラス・木・映像
H23 × W425 × D90cm

